

委員名簿



出口敦

東京大学大学院
社会文化環境学専攻 教授



古橋大地

青山学院大学
地球社会共生学部 教授



瀬戸寿一

駒澤大学
地理学科 准教授



吉村有司

東京大学
先端科学技術研究センター
特任准教授



齋藤精一

パノラマティクス
主宰



水野祐

シティライツ
法律事務所パートナー



重松真理子

(一社)大手町・丸の内・
有楽町地区まちづくり協議会都市
政策・ガイドライン部会長



若井太郎

東京都デジタルサービス局
データ利活用担当部長



宇野善昌

国土交通省

オブザーバ

デジタル庁デジタル社会共通機能G / 内閣府科学技術・イノベーション推進事務局 / 内閣府地方創生推進事務局(都市再生・未来技術実装担当) / 内閣官房地理空間情報活用推進室 / 経済産業省商務情報政策局 / 経済産業省製造産業局 / 総務省情報流通行政局 / 大臣官房技術調査課、官庁営繕部整備課 / 総合政策局モビリティサービス推進課 / 不動産・建設経済局情報活用推進課、不動産市場整備課、建設業課 / 住宅局建築指導課 / 自動車局技術・環境政策課 / 国土地理院企画部地理空間情報企画室

委員略歴



出口 敦

東京大学 大学院新領域創成科学研究科 研究科長及び社会文化環境学専攻 教授

東京大学工学部都市工学科卒業、1990年同大学院博士後期課程修了(工学博士)。九州大学助教授、教授を経て2011年東京大学教授に就任。専門は都市計画学、都市デザイン学。

柏の葉アーバンデザインセンター(UDCK)センター長、柏アーバンデザインセンター(UDC2)センター長、信州地域デザインセンター(UDC信州)センター長、一般社団法人UDCイニシアチブ 代表理事、(公益財)都市づくりパブリックデザインセンター 評議員(2018年度～)、日本都市計画学会 会長、柏市都市計画審議会 会長等。

2020年度に都市局が主催していた「デジタル化の急速な進展やニューノーマルに対応した都市政策のあり方検討会」の座長を務めた。



古橋 大地

青山学院大学地球社会共生学部教授/東京大学 空間情報科学研究センター 協力研究員/京都大学 防災研究所 巨大災害研究センター 客員教授/和歌山大学 教育研究アドバイザー/3D都市モデルの整備・活用促進に関する検討分科会座長

東京生まれ。東京都立大学で衛星リモートセンシング、地理情報システムを学び、2001年に東京大学大学院 新領域創成科学研究科 修士課程(環境学)修了。

マップコンシェルジュ株式会社 代表取締役社長、オープンストリートマップ・ファウンデーション・ジャパン 副理事長、東京大学空間情報科学研究センター 特任研究員、OSGeo財団日本支部理事。2015年4月より青山学院大学 地球社会共生学部 教授に就任予定。専門は地図学、森林リモートセンシング。

地理空間情報の利活用を軸に、Googleジオサービス、オープンソースGIS(FOSS4G)、オープンデータ(OpenStreetMap)の技術コンサルティングや教育指導を行なっている。



瀬戸 寿一

駒澤大学地理学科准教授/東京大学空間情報科学研究センター客員研究員

駒澤大学文学部地理学科卒業。2004年東京都立大学大学院都市科学研究科修士課程修了、2012年立命館大学大学院文学研究科博士課程後期課程修了、博士(文学)。

立命館大学文学部実習助手・専任講師、東京大学空間情報科学研究センター特任助教・特任講師を経て2021年駒澤大学准教授に就任。専門は社会地理学、地理情報科学で、参加型GISやシビックテック・オープンデータに関する研究に従事。

「3D都市モデルの整備・活用促進に関する検討分科会」委員、東京都における『都市のデジタルツイン』社会実装に向けた検討会委員、国土地理院「測量行政懇談会基本政策部会」委員、総務省地域情報化アドバイザー、OSGeo日本支部運営委員(OSGeo Foundation Charter Member)、Code for Japanフェロー等を務める。

委員略歴



吉村 有司

東京大学先端科学技術研究センター特任准教授

愛知県生まれ、建築家。2001年より渡西。ポンペウ・ファブラ大学情報通信工学部博士課程修了(Ph.D. in Computer Science)。バルセロナ現代文化センター、バルセロナ都市生態学庁、カタルーニャ先進交通センター、マサチューセッツ工科大学研究員などを経て2019年より現職。ルーヴル美術館アドバイザー、バルセロナ市役所情報局アドバイザー。主なプロジェクトに、バルセロナ市グロシア地区歩行者計画、バルセロナ市バス路線変更計画、Bluetoothセンサーを用いたルーヴル美術館来館者調査、機械の眼から見た建築デザインの分類手法の提案など、人工知能(AI)やビッグデータを用いた建築・都市計画・まちづくりの分野に従事。近年公開した学術論文:『街路の歩行者空間化は小売店・飲食店の売り上げを上げるのか、下げるのか?~ビッグデータを用いた経済効果の検証~』『ビッグデータを用いた都市多様性の定量分析手法の提案~デジタルテクノロジーでジェイン・ジェイコブズを読み替える~』でアーバン・サイエンスの最先端を提示し世界的に注目されている。



齋藤 精一

パノラマティクス主宰

神奈川県生まれ、東京理科大学理工学部建築学科卒。建築デザインをコロンビア大学建築学科で学び、2000年からニューヨークで活動を開始。Omnicom Group傘下のArnell Groupにてクリエイティブ職に携わる。フリーランスのクリエイターとして活躍後、2006年株式会社ライゾマティクス設立(現:株式会社アブストラクトエンジン)、2016年よりRhizomatiks Architecture(現: Panoramatiiks)を主宰し、俯瞰的な視点でこれまで繋がらなかった領域を横断し組織や人を繋ぎ、仕組みづくりから考えつくるチームを立ち上げる。現在では行政や企業などの企画や実装アドバイザーも数多く行う。2018-2021年グッドデザイン賞審査委員副委員長。2020年ドバイ万博 日本館クリエイティブ・アドバイザー。2025年大阪・関西万博 People's Living Labクリエイター。



水野 祐

シティライツ法律事務所パートナー

弁護士(シティライツ法律事務所)。九州大学GIC客員教授。Creative Commons Japan理事。Arts and Law理事。慶應義塾大学SFC非常勤講師。note株式会社などの社外役員。テック、クリエイティブ、都市・地域活性化分野のスタートアップから大企業、公的機関まで、新規事業、経営戦略等に関するハンズオンのリーガルサービスを提供している。著作に『法のデザイン -創造性とイノベーションは法によって加速する』、共著に『オープンデザイン参加と共創から生まれる「つくりかたの未来」』など。

委員略歴



重松 真理子

一般社団法人大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会 都市政策・ガイドライン部会長 兼 スマートシティ推進委員会委員長

エリアマネジメントに係るまちづくり制度やビジョン形成など、公民協調による取組を推進。

近年、NPO法人大丸有エリアマネジメント協会(リガーレ)事務局として道路空間活用に携わったほか、エリア内のイノベーションエコシステムの形成

促進に向けた取組の立上、スマートシティの推進、エネルギーエリアビジョンの策定・推進に取り組んでいる。



若井 太郎

東京都デジタルサービス局
データ利活用担当部長

平成3年 東京都庁に入都。

建設局河川部担当課長、道路管理部路政課長、三環状道路整備推進部管理課長、総務局総合防災部防災計画課長、議会局総務課長などを経て、令和4年4月よりデジタルサービス局データ利活用担当部長として、東京データプラットフォーム、デジタルツイン、オープンデータ等を担当。



宇野 善昌

国土交通省

千葉県出身。一橋大卒、89年建設省入省。住宅局住宅政策課企画専門官、甲府市副市長、国交省都市局都市計画課長、茨城県副知事、国交省道路局次長、国交省都市局長などを経て、22年7月から国交省大臣官房長。